

中生の晩熟期で高温耐性の多収・良食味水稻 「^{みの}実りつくし」

農産部、筑後分場

1 背景、目的

近年、水稻では夏期の高温による玄米品質の低下が問題となっています。特に、作付面積の約4割を占める中生品種「ヒノヒカリ」は、高温に加え、作付集中による刈り遅れで、品質の低下が助長されています。また、収穫期が早生品種「元気つくし」と競合する場合があります。

そこで、「ヒノヒカリ」より高温耐性、多収、良食味で、1週間程度遅く収穫できる新品種「実りつくし」を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「実りつくし」は、平成18年に「西海250号（後のにこまる）」を母、「ちくし64号（後の元気つくし）」を父として人工交配を行った組合せに由来します。

「ヒノヒカリ」と比較して、次のような特長があります。

- 1) 成熟期は5～7日遅い「中生の晩」です。稈長は同程度。穂数はやや少ないものの、1穂粒数が多く、千粒重が重いため、収量は8～10%多収です。玄米の外観品質は良好で、検査等級は優れます（表1、図2）。
- 2) 炊飯米は、外観、味、粘りともに良好で、良食味です（表1）。
- 3) 高温耐性は‘強’で、夏期の高温条件でも品質低下が少ないです（図2）。葉いもちほ場抵抗性は‘弱’で、穂いもちほ場抵抗性は‘やや弱’です（表2）。

3 主要なデータ・画像など

表1 「実りつくし」の生育、収量、品質特性

試験 場所	品種名	成熟期	稈長	穂数	1穂	精玄	同左	千粒	検査 等級	食味 総合
		(月.日)	(cm)	(本/m ²)	粒数	米重 (kg/a)	比率 (%)	重 (g)		
農産 部	実りつくし	10.07	76	284	120	53.5	108	24.6	1.9	0.23
	ヒノヒカリ	9.30	76	308	108	49.7	100	23.4	2.4	-0.07
筑後 分場	実りつくし	10.13	80	330	-	58.6	110	23.5	2.3	0.32
	ヒノヒカリ	10.08	81	380	-	53.2	100	22.7	3.8	0.04

- 注) 1. 平成24~26年度平均値。
 2. 検査等級: 1(1等上)~9(3等下)。
 3. 食味総合は農産部コシヒカリを基準(0.00)に評価。

表2 「実りつくし」の高温耐性、耐病性

品種名	高温	圃場抵抗性	
	耐性	葉もち	穂もち
実りつくし	強	弱	やや弱
ヒノヒカリ	弱	弱	やや弱

注) 平成24~26年度成績。



図1 草姿の比較

注) 左: 実りつくし、右: ヒノヒカリ



「実りつくし」 透明できれいな玄米



夏の暑さに弱い品種 白く濁る

図2 玄米品質の比較